

▼トミロン錠 [内]

【重要度】★ 【一般製剤名】セフテラムピボキシル (CFTM-PI) ceftoram pivoxil 【分類】経口セフェム系抗生物質

【単位】▼50mg・▼100mg/錠

【常用量】150～600mg/日

【用法】分3食後

【透析患者への投与方法】50～75%に減量 (5)

【その他の報告】100mgを1日1回が適当であるが、100mgを1日2回投与も可能 (山本尚哉, 他: Chemotherapy 1990)

【保存期 CKD 患者への投与方法】高度腎障害患者では適切に減量 (1)

【その他の報告】Ccr 30mL/min 未満では50～75%に減量 (5)

Ccr 30mL/min 以下では連続投与により血中濃度が上昇 (福岡義和, 他: Chemotherapy 34(S2): 150-7, 1986)

【特徴】経口投与後、腸管壁のエステラーゼにより分解されて抗菌活性体のセフテラムに変換されるプロドラッグ。グラム陽性菌に対してはアンピシリンと同等、グラム陰性菌に対しては従来のペニシリン系、セフェム系経口剤よりも優れた抗菌力を示す。β-ラクタマーゼに対して安定性が高い。

【主な副作用・毒性】ショック・アナフィラキシー、SJS・TEN、偽膜性大腸炎、急性腎不全、肝障害、消化器障害、肺障害、ビタミン欠乏症、カルニチン欠乏症、口内炎など

【Ka】食後投与で0.66/hr (1)

【tmax】3hr (1)

【代謝】吸収時に腸管粘膜でエステラーゼにより代謝され抗菌活性を有するセフテラムとピバリン酸になる。ピバリン酸はカルニチン抱合をうけ尿中にピバロイルカルニチンとして排泄される (1)

【排泄】尿中未変化体排泄率23～26% [po] (小山優, ほか: Jpn J Antibit 40: 55-76, 1987) 尿中排泄率32.8% [po, 8hr まで] (1)

【CL】106.5～102mL/min (小山優, 他: Jpn J Antibit 40: 55-76, 1987) 尿細管分泌される (1)

【t1/2】0.83hr (1) Ccr 40～70mL/min : 1.46hr, Ccr 20～30mL/min : 4.36hr (1)

【蛋白結合率】74.6% (1)

【Vd】7.61～9.28L/man (小山優, 他: Jpn J Antibit 40: 55-76, 1987) Vd/F=27～47L/man (1)

【MW】593.64

【透析性】資料なし (1) 透析半減期4.1～4.7hr (山本尚哉, 他: Chemotherapy 1990)

【O/W 係数】資料なし (1)

【更新日】20170805

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。